

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念	『子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる』	子どものバックグラウンドや発達を知り、想いを受け止めながら一歩先の手立てを考える寄り添い方ができている		✓			保育の方向性として、園職員の視察同じ方向を向く保育に励み、ほとんどの保護者も園の保育方針に共感してくれている。開園4年を経過し、「モコ掛川保育園」の園風が確立されてきた。職員も保護者も子ども達の日々の成長を共感し、互いに悩みを話したり、育ちを喜んだりしながら「その子」の育ちを丁寧に見守っている。本年度、はじめての公開保育（掛東学園）を行い、本当に学ぶことが多かった。園内社内で振り返ったり、意見をもらったりする機会はたくさんあるが、園外の先生方に意見をいただける機会はなかなかない。井の中の蛙にならないよう、積極的に外部から意見を求め、保育の質の向上に努める大切さと有意義さを改めて感じた。次年度は未来学会の公開保育を予定している。普段通りの保育を見て頂き、様々な学びが得られることを期待したい。
	園の基本方針	子ども一人一人の発達や成長、その子を取り巻く環境をよく理解し、その子の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育をする』 『未来を生き抜くために、たくましい心と体を作り、想像力豊かに考える事ができるよう保育する』 『安心して子どもを預ける環境を作り、親が自ら自分の子育てを相談したくなるような信頼関係を目指す』	専門的な知識のもとで、子どもの成長を促すための環境を整え、ひとりひとりの育ちを的確に捉え、援助していくと共に、保護者にも園での細かな子どもの姿を伝え、子どもの育ち共有し、前向きに子育てできよう、保護者支援を行っている		✓			保護者との連絡ツールや記録として利用している「コドモン」は、日々の事務作業の中に定着したが、忙しい中での配信となると、職員の捉えているもっと細かな子どもの姿が、記録なされなかったり、配信することのみに意識がいきまいて、細かな子どもの理解がなされていなかったり「慣れ」による問題を課題として感じている。次年度は研修の中で、自身の自信のあるドキュメンテーション（子どもの成長記録）を持ち寄り、職員同士で読み合って見たり、保育の視点の顔を向とさせる事ができるように計画していきたい。
	園の目指す子ども像	『子どもらしい子』 『自分で考え決められる子』 『しなやかな心を持つ子』 『思いやりのある子』	ひとりひとりの子どもを理解し、その子の育ちを大切に遊ぶ遊びを中心にして、子ども同士が切磋琢磨しあいながら成長できることを願い、様々な配慮や環境設定を行う事ができている		✓			保護者との連絡ツールや記録として利用している「コドモン」は、日々の事務作業の中に定着したが、忙しい中での配信となると、職員の捉えているもっと細かな子どもの姿が、記録なされなかったり、配信することのみに意識がいきまいて、細かな子どもの理解がなされていなかったり「慣れ」による問題を課題として感じている。次年度は研修の中で、自身の自信のあるドキュメンテーション（子どもの成長記録）を持ち寄り、職員同士で読み合って見たり、保育の視点の顔を向とさせる事ができるように計画していきたい。
	園の求める保育の視点	『何かに興味を持っている』 『夢中になっている』 『チャレンジしている』 『気持ちを表現している』 『役割を果たしている』	ひとりひとりの子どもを理解していくにあたり、「その子」の興味関心に保育士が気づき、観察し、成長を読み取る事ができるまた、成長の記録として残すことができている		✓			保護者との連絡ツールや記録として利用している「コドモン」は、日々の事務作業の中に定着したが、忙しい中での配信となると、職員の捉えているもっと細かな子どもの姿が、記録なされなかったり、配信することのみに意識がいきまいて、細かな子どもの理解がなされていなかったり「慣れ」による問題を課題として感じている。次年度は研修の中で、自身の自信のあるドキュメンテーション（子どもの成長記録）を持ち寄り、職員同士で読み合って見たり、保育の視点の顔を向とさせる事ができるように計画していきたい。
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	チェックリストを活用し、自身の振り返りを行っている。 園内研修の中で、振り返りについて話し合い、組織として不適切な対応をどう無くしていくべきかを考える時間を確保している		✓			本園の保育の中で「憧れの気持ち」は子ども達の意欲を沸き立てる何よりの環境である。本年度も、夕涼み会・運動会・コンサートごっこ・ドッチボール・コマ回し等々憧れの気持ちが意欲につながり、遊びが豊かに展開される事が多くあった。クラスの枠にとらわれず、職員同士が普段から交流することで、子ども達の遊びを見つける視野も広がり、より面白いを見つけて遊びが広がっていくのだと改めて感じた。
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切にした保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	大きくなる事への憧れや喜びを感じられるよう、クラスの枠にとらわれず、異年齢の関わりを意識しながら保育を行っている。		✓			「次はどうしようか…」「こんな環境は？」職員が保育環境作りを何よりも大切なものだと考え、子ども達のために日々試行錯誤できていることは本園の自慢できることである。より豊かな遊びが展開できるよう、様々なアイデアを出し合い、少しずつでも実現していく事が職員の意欲にもつながり、子ども達にとっての最善になると考える。
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている	子どもの発想や「やってみたい!」の気持ちを汲み取り、遊びが発展するように援助や環境構成がなされている	✓				「次はどうしようか…」「こんな環境は？」職員が保育環境作りを何よりも大切なものだと考え、子ども達のために日々試行錯誤できていることは本園の自慢できることである。より豊かな遊びが展開できるよう、様々なアイデアを出し合い、少しずつでも実現していく事が職員の意欲にもつながり、子ども達にとっての最善になると考える。
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 育ちや発達に考慮した関わりを行っている	子ども自身が見通しを持った生活が送れるよう、日々日課が変動することが無いよう計画を立てている。 生活に無理が無いよう、家庭でのリズムの安定も保護者と共に考えたり、連携を密にし対応をしている。		✓			「次はどうしようか…」「こんな環境は？」職員が保育環境作りを何よりも大切なものだと考え、子ども達のために日々試行錯誤できていることは本園の自慢できることである。より豊かな遊びが展開できるよう、様々なアイデアを出し合い、少しずつでも実現していく事が職員の意欲にもつながり、子ども達にとっての最善になると考える。
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	子どもの興味だけでなく、発達を意識し様々な経験が出来たり、季節を感じられる環境構成がなされている	✓				「次はどうしようか…」「こんな環境は？」職員が保育環境作りを何よりも大切なものだと考え、子ども達のために日々試行錯誤できていることは本園の自慢できることである。より豊かな遊びが展開できるよう、様々なアイデアを出し合い、少しずつでも実現していく事が職員の意欲にもつながり、子ども達にとっての最善になると考える。
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	指示系統が明確になっている上で、各クラスが主体的に子どもの命を守るための判断ができるよう、訓練の為でない話し合いを行う		✓			昨今、予想を超える災害が毎年のように起こり、今までのように「地震」での災害を重視した訓練やマニュアル理解では、子ども達の安全を守ることはできない。本年度、8月に南海トラフ地震臨時情報の発令時、夏季希望保育中であったため、万が一の際は園長・主任の不在時の対応が求められることとなった。イレギュラーにいかに対応できるか…常に指示を待つのではなく、職員ひとりひとりが自分に対応していく意識を強く持つことを検めて感じ、対応方法を再確認した。本来なら、この確認は年度当初行うべきだったが、この時期になってしまったのは反省。クラスの体制が変化する4月には必ず災害時の対応についてクラスごとで確認をし、役割の明確化を行うようにしたい。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につながらない	日々の細かいヒヤリハットについて、全職員に周知しておきたい事項はコドモンで配信をする等、迅速に全体周知を行うよう意識をする		✓			昨今、予想を超える災害が毎年のように起こり、今までのように「地震」での災害を重視した訓練やマニュアル理解では、子ども達の安全を守ることはできない。本年度、8月に南海トラフ地震臨時情報の発令時、夏季希望保育中であったため、万が一の際は園長・主任の不在時の対応が求められることとなった。イレギュラーにいかに対応できるか…常に指示を待つのではなく、職員ひとりひとりが自分に対応していく意識を強く持つことを検めて感じ、対応方法を再確認した。本来なら、この確認は年度当初行うべきだったが、この時期になってしまったのは反省。クラスの体制が変化する4月には必ず災害時の対応についてクラスごとで確認をし、役割の明確化を行うようにしたい。
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	想定された避難訓練だけでなく、保育士も想定していない予告なしの訓練を何度か行い、いざという時にも対応できるようにする。 園長やリーダー不在時の対応方法を再度確認し、いつ非常事態になっても対応できるよう確認を行う		✓			昨今、予想を超える災害が毎年のように起こり、今までのように「地震」での災害を重視した訓練やマニュアル理解では、子ども達の安全を守ることはできない。本年度、8月に南海トラフ地震臨時情報の発令時、夏季希望保育中であったため、万が一の際は園長・主任の不在時の対応が求められることとなった。イレギュラーにいかに対応できるか…常に指示を待つではなく、職員ひとりひとりが自分に対応していく意識を強く持つことを検めて感じ、対応方法を再確認した。本来なら、この確認は年度当初行うべきだったが、この時期になってしまったのは反省。クラスの体制が変化する4月には必ず災害時の対応についてクラスごとで確認をし、役割の明確化を行うようにしたい。
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができおり安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている				✓		昨今、予想を超える災害が毎年のように起こり、今までのように「地震」での災害を重視した訓練やマニュアル理解では、子ども達の安全を守ることはできない。本年度、8月に南海トラフ地震臨時情報の発令時、夏季希望保育中であったため、万が一の際は園長・主任の不在時の対応が求められることとなった。イレギュラーにいかに対応できるか…常に指示を待つではなく、職員ひとりひとりが自分に対応していく意識を強く持つことを検めて感じ、対応方法を再確認した。本来なら、この確認は年度当初行うべきだったが、この時期になってしまったのは反省。クラスの体制が変化する4月には必ず災害時の対応についてクラスごとで確認をし、役割の明確化を行うようにしたい。

保健・食育	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	感染症への罹患が確認された場合の対応方法（保護者へ伝える事、提出書類、室内の消毒等）を周知する		✓			日々の散歩や外遊びの充実と「お外遊び」子ども達の体力が、感染症が拡大せず、出席率の良さの一因となっているのかな？と感じるほどである。体を動かすという面においても、「慣れ」は意欲につながり、運動会前後でなわとび・鉄棒・跳び箱等かっこいい年長児に慣れ、チャレンジしようとする姿がたくさん見られた。伝承されるこの姿を職員も保護者と一緒に見守って育ちを支えていきたい。
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身に付いている	園外へ積極的に出かけ、園内だけではできない様々な経験ができるようにする。異年齢で同じ空間で遊ぶ事を大切にし、年長児が挑戦している事に興味を持ちやってみようチャレンジする気持ちを育む。		✓			
	食育	自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている	収穫してすぐに食べてみる経験や、皮むきなど調理過程を経験するなど、実体験を通しての「食育」を大切にする		✓			
		食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	取組してすぐに食べてみる経験や、皮むきなど調理過程を経験するなど、実体験を通しての「食育」を大切にする			✓		
		発達に応じた食事のマナーを伝えている	子ども達の「食事」の発達を見直し、食具の移行等との職員も同じ意識を持ち、援助していけるようにする		✓			園で収穫した食材を収穫直後に食べたり、おやつのおにぎりを握ったり、食育活動は様々な取り組み入れられたと思う。次年度は今年度作成した「食事」に関する発達と体験を含めた計画をしっかりと立てていきたい。

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にした組織運営ができている	「お互い様」の気持ちを大切に、得意分野は生かし苦手分野はフォローしあえる風通しの良さを大切にする 決定や責任等の役割分担は明確にしつつも、トップダウンにならないよう、それぞれが持っている意見を尊重し、皆が考え、意見を持っている組織作りを行う	✓				開園当初から行っている、未満児クラスの毎日のクラスミーティングは、経験年数に関係なく、皆が意見を出し合い、その日の保育で困った事等を皆で共有できる場となっている。日々起こってくる様々な課題に関して、クラスリーダーが中心となり、皆の意見をまとめ対応策が練られている。どの職員も課題に関して他人事とならずに向き合っているのはミーティングの成果ではないかと考える。 次年度もたくさん語り合う機会を作り、風通しの良い職場を目指したい。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている		✓				
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりできている		✓				
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	支援児に焦点を当て、対応方法を考えたり、市の連携期間や発達障害の種類による特性を学び知識を深める		✓			支援児に焦点を当てた学びは研修立案が難しく、リーダー職員同士で学び合いの時間を作ったり苦慮していたが、様々な視点で子どもを捉える経験は有意義な時間でもあった。チーム人数が6名ずつで勤務時間中の研修がなかなか難しかった。次年度は人数を少なくし、より主体的な学びとなるよう、研修内容を選択できるようにしたい。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	キャリアアップ研修への参加や、掛川市主催の研修会に積極的に参加し各々のスキルアップを行う。			✓		
家庭護と者の支援携と	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	コドモンでの配信や、送迎時の職員との会話の中で、園での子ども達の姿を互いに共有したり、保育士側が必要と感じた場合に限らず、保護者側が希望した場合にも個別に面談の時間を確保するように配慮をし、ひとりひとりの子どもに対しての共通理解や対応ができるようにする。			✓		コドモンで写真入りの連絡ノートは子ども達の姿を家庭に発信するツールとして保護者からも好評をいただいている。写真を添付していることで、保護者と子どもの姿を共有できる事は最大の利点であると考えられる。しかしながら、園側の言葉のチョイスや配信のタイミング、発信の仕方によっては、保護者に疑問を持たせてしまったり、不安をあおったりすることもある。保護者の気持ちになって読み返す等配慮は課題となるし、子育ての伴走者になるためのより丁寧な配慮を職員で意識していく必要がある。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまづきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っているような取り組みをしている			✓			
と校近の隣連園の携学	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるように努めている	掛東学園の公開保育を本園で行い、学園内の園小中学校の先生方に保育を見てもらい、「幼児期に育てたい10の姿」を視点に学園内で意見を交わし合う。架け橋プログラム策定のための研究会を行う。		✓			公開保育では総勢10名超のたくさんの先生方に来園いただき、学園内に本園の保育を知っていただく良い機会になった。架け橋プログラムの策定に向け、学園内で育てたい子ども像がもっと明確化され、本園のプログラムに生かすことができるよう、主体的に研修に参加していきたい。
と近の隣連地域携域	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	地域の方に見守られている事、ご厚意で様々な活動ができていることに感謝の気持ちを職員皆が持ち、気持ちの良い挨拶を心掛けたり、地域の方と交流できる機会を積極的に設ける			✓		園での敬老会に地区のお年寄り10名に来園いただき、自分たちの祖父母よりも年の大きな方々とのふれあいができたことは、子ども達にとって貴重な経験となった。次年度もできる限り地域の方とのふれあいを意識し、園が地域に支えられている事を意識しながら運営をしていきたい。